

もくじ

- はな むら ぬすびと
花のき村と盗人たち

はな むら ぬすびと 花のき村と盗人たち

げんさく
原作： にいみ なんきち
新美 南吉

イラスト： かわの まほ

へんしゅう
編集： YellowBirdProject

むかし、^{はな むら}花のき村という^{ちい むら}小さな村に、^{ごにんぐみ むすびと}五人組の盗人
 たちがやってきました。^{むすびと}盗人たちが、^{きた かわ そ}北の川に沿って
^{むら い ぐち}村の入り口までくると、^{みどり のはら}そこは緑の野原で、^こ子ども
 たちと家畜の牛が、^{かちく うし}すがすがしい風を受けながら
^{あそ}遊んでいました。

^{ごにん たか やぶ は}五人が、^{しげ}高い敷の生えた茂みに^{み かく}身を隠すと、そこで
^{むすびと}盗人たちの^いかしらが言いました。

「それでは、おれはここで^{かく ま}隠れて待っているから、
^{まえ むら なか はい}お前らは村の中に入って、^{ようす さぐ}様子を探ってこい。
^{かね}金のありそうな^{いえ み}家を見つけたら、^{いえ まど}その家のどの窓が
^{やぶ}破れそうか、^{いぬ}犬がいるかなどを、^{くわ しら}詳しく調べてこい。
^{まえ}お前らはまだ、^{むすびと}盗人になってから^{ひ あさ}日が浅いんだ。
 へまをしないように^き気をつけるんだぞ」

『へい、かしら!』

こうして、^{よにん むすびと}四人の盗人の弟子たちは、^{はな むら はい}花のき村に入り
^こ込みました。



かしらは、弟子たちがいってしまうと、川端の草の上^{うえ}にどかっと腰^{こし}を下ろしました。このかしらは、ずっと前から、本当の盗人^{ぬすびと}でした。つい昨日^{きのう}、四人の弟子^{でし}が入るまで、ずっと一人で盗み^{おこな}を行っていました。

少しして、弟子の『釜右工門』^{かま えもん}が帰^{かえ}ってきました。釜右工門^{かま えもん}は、昨日まで金物屋^{かなものや}をしていて、釜^{かま}や鍋^{なべ}を作^{つく}ったり、茶釜^{ちやがま}に空いた穴^あをふさいだりして暮らし^くを立て^たてていました。

「かしら！かしら！」

「おう、どうだった？」

「それが、いい家^{いえ}を見つけたんです。西^{にし}の川^{かわ}沿^ぞいに、大きな家^{おお}がありましてね。そこの飯炊き釜^{めした がま}が、一度^{いちど}に山^{やま}ほど飯^{めし}が炊^たける、大釜^{おおがま}だったんですよ！」

